

令和4年度(第26回)職業訓練教材コンクールの総評

職業訓練教材コンクール審査委員長

1. はじめに

令和4年度(第26回)職業訓練教材コンクールは、「人材開発に携わっている方々などが、日々の「創意工夫」により開発した「教科書」や「映像・シミュレータ」などの様々な「教材」について、訓練実施効果の向上が見込まれるなどの優秀な教材作品を選定し、広く人材開発関係者などへ周知広報・普及することによって、訓練指導技法の技術・技能水準の向上を図るとともに、人材開発の推進や向上に資すること」を目的として、厚生労働省、中央職業能力開発協会、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構の共催により行われました。

2. 応募の状況

今回の応募作品数は94点で、その内訳は、都道府県立職業能力開発施設15点、民間7点、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構立施設72点となりました。

分野別では、機械加工・製図関係分野28点、電気・電子・情報関係分野37点、建築・木工・デザイン関係分野11点、産業機械・メカトロ関係分野7点、障害者関係分野6点、その他の分野5点となり、ものづくり分野を中心に幅広い分野で応募がありました。

3. 総評

令和4年度の職業訓練教材コンクールにつきましては、前回、前々回に続き90点を超える応募があり、職業能力開発の充実に向けた関係者の積極的姿勢がうかがえる結果となりました。

また、訓練の効率化や訓練生の理解促進のための工夫をこらした作品が多くみられました。それらの力作から、ご応募いただいた皆様の粘り強い試行錯誤と豊かな創意工夫の跡が感じられ、また、ご関係者の職業能力開発に対する取り組みへの強い熱意が感じられました。

その中でも、今回厚生労働大臣賞特選を受賞した作品「建設機械の保全技術～現場で使える保守・点検～」は、建設機械の保守作業について、それぞれの点検箇所や点検方法だけでなく、早期不具合発見ポイント、実際の不具合など、現場で発生している事例を、写真を交えつつ詳しく解説したものです。それは高度に実践的な内容で構成されており、現在の建設機械業界のニーズを踏

まえた訓練内容であることから、高い訓練効果が期待できます。

入賞となった他の作品はもちろん、惜しくも入賞を逃した作品にも高く評価できるものは数多くあり、今回、応募作品の教材としての完成度の高さを全体的に感じる事ができたことは、とても喜ばしいことです。

その一方で、関連資料の不足、訓練の対象となる技能・技術要素、指導・利用方法の不明瞭さ等、教材として未完成と感じられるものが残念ながら、一部に見受けられました。

ご関係の皆様には、以上の点に留意され、今回の受賞作品を参考に、さらなる研鑽を積んでいただけたらありがたく存じます。

今回熱心に御応募いただきました皆様方にお礼を申し上げますとともに、次回以降の教材コンクールにおきましても、さらに多くの方々から作品を応募していただくことを期待し、総評とさせていただきます。